



No.16

# mi.ra.i.e

つなごう・未来へ

出版に働くものだからこそ、できること

2016年7月10日発行

編集・発行 出版労連（日本出版労働組合連合会）〒113-0033 東京都文京区本郷 4-37-18 いろは本郷ビル 2階

TEL 03-3816-2911 FAX 03-3816-2980 E-mail rouren@syuppan.net URL <http://www.syuppan.net/>

## 多様に反戦する



### 弱さとともに

篠原 久美子（劇作家）

対話によって成立する演劇は、武力攻撃による外交手段に反対します。

人間を中心に据えた演劇は、人権を軽視する法案に反対します。

演劇は戦争に反対します。

2003年2月、『イラク攻撃と有事法制に反対する演劇人の会』が立ち上げられた際、私は賛同者を募る呼びかけ文にこう書きました。（現在は『非戦を選ぶ演劇人の会』と名前を変えて活動を継続しています）。この呼びかけに応え、多くの賛同のメッセージと協力者が集まりましたが、その中に胸に刺さる一つのメッセージがありました。

「演劇は戦争に反対すると言っているのか。第二次世界大戦中、多くの演劇人が戦意高揚の演劇を行ったことを忘れるのか。」賛同や

励ましの力強いメッセージや戦争への怒りを綴った体験、優しい祈りや願いの言葉の数々の中にあつた棘のようなこのメッセージは、今でも胸に小さく刺さっています。

以前、何かで読んだのですが、日本の演劇史上、国家が最も演劇に予算を割いたのは第二次世界大戦中だったそうです。多くの移動演劇隊が慰問のための演劇を行えたほどの国費を、国家が演劇に割いた時代は他にはないと。「もしも」と私は考えました。もしもその時代に生きて劇作家であったなら、私は慰問のための演劇を書かなかつたか？ 書いた、かもしれないと、血の下がるような思いで考えました。私は自分が戦争に賛成することはないと知っています。けれど、「命がけで戦っている兵隊さんたちを励まし楽しんでもらえる演劇を…」という素朴な善意や願いに背を

向け続ける自信は、ない、と思った瞬間、背筋が冷たくなりました。もちろん、戦意高揚の演劇と慰問の演劇・演芸が違うことは分かっていますし、その時代を生きた先輩方を責めるようなことを言いたいわけではありません。そうではなく、自分にとって大切な演劇や「ものを書く」という行為が、戦争の一部として、いつの間にか、しかも善意によって組み込まれていくことを恐れるのです。なによりも、「そんなこと言たってしかたがないじゃない」と、踏ん切りをつけてしまうかもしれない私の中の強さを恐れます。戦争に反対する立場から書き続けたいと思うのは、「加害者」になることを恐れ続けたいからです。他の誰でもない自分自身が、「殺人と破壊を励ます表現」をしてしまうことに、心底、怯える弱さを持ち続けたいと思うのです。

昨年、安保法制案の全文を読み、『明日、戦場に行く』という朗読劇（ピースリーディング）を、非戦を選ぶ演劇人の会のために書

きました。書きながら、私は震えました。この法律は、「戦争法案ではない」と言うことができることに怯えました。戦争の定義が「国と国との喧嘩」で、宣戦布告をして始まることを想定するなら「違う」と言えてしまう法律、けれど、今、世界にそんな戦争は見当たりません。あるのは、ほとんど内戦とテロで、そこに泥沼の戦場が生まれている、まさにそこに、自衛隊を送れる、そういう法律でした。国家が「これは戦争だ」と言うこともなく、自国民を戦場に送れる法律一。そのことを震えるように怖がる弱さを手放さずに書きたいと思いました。人が死ぬことを恐れない、人が人を殺すことに怯えない。その弱さを絶対に手放さないほど弱くなりたい。

戦意高揚の演劇を創るまいとして、強い意志で反戦を唱えようとする、私の弱さはきっと善意に負けてしまうでしょう。だから、善意にさえ説得されないほど臆病に、殺すことを怯え続ける弱さを持ち続けて、創作していけないものかと思っています。

## 18 歳からの民主主義

岩波新書編集部 編



青井未帆・中野晃一・堤未果・諸富徹・齋藤優里彩・周庭・むのたけじ 他 28 人執筆

「18歳以上に選挙権」（改正公職選挙法）が6月19日（2016年）に施行された。

本書は、まず18歳19歳の人に読んでほしい。

日本の社会のあらゆる問題点をいろんな立場の人たち（海外の若者も）がやさしく説明している。

高齢者の高投票率によって実現（？）されているシルバー・デモクラシーではなく、若者の要求をも満たす民主主義の社会にするには……。

そして、しばらく投票に行っていないあなた！

投票してみようかと思えるきっかけが、本書で見つかるかもしれません。

自分の生活の中に政治と無関係なものなんて存在しないと気づいているあなた、多様性を尊重する社会をつくるために、変える力をもつ〈一票〉を！

価格 840 円＋税  
発行 岩波書店  
東京都千代田区一ツ橋 2-5-5  
新書編集部 03-5210-4054



## 「核のあるメッセージ」を伝えたい

齋藤 優里彩（制服向上委員会）

普段は隠しているが（隠しているつもり）根っこは、勝気で、自信家、目立ちたがり屋タイプの私。芸能界への憧れは、常にある。ならば、なぜ、制服向上委員会に？ そんな疑問を、何度かもらったことがあった。

確かに、戦争反対や、平和を願う抽象的なメッセージにとどまらず、具体的に名ざして政権批判をするグループでの活動は、日本の現状を考えると、必然的にメディア露出が限られることとなり、前述した私の性格とは矛盾する部分がある。でも、私は誰かを想いすぎて「会いたくて会いたくて震え」たことはなかったし、メロディーだけを楽しむような、仮想の恋愛や青春だけを歌うのではなく、一人ひとりに密接に関わる、核のあるメッセージも伝えたいと強く思った。

戦争を望む人は、いないだろう。誰もが欲している平和。日本のそれと憲法は切っても切れない。それでも、押し付け憲法という方がいる。いや、押し付けられても、良いものは良いだろうし、70年間守り通し、曲がりなりにも戦争をしなかった事実が、何よりも雄弁に憲法が抑止力なのだと言っている。原発という負の遺産を54基も抱えていながら、憲法解釈を変え、世界一の争い好き「アメリカ」の属国となるリスクを背負わなければならないほどの、中国の脅威や北朝鮮の軍備拡張、それは事実なのだろうか。

現実には、理想を追いかけるものだが、理想が現実に合わせて形を変えている今の日本に、疑問と不安を抱いていた。日本における、憲法の存在。それが、どこかの遠い国、でも確実に、同じ地球の、どこかで上がる逃げ惑う悲鳴や、轟く銃声に怯えない生活へ、とても大きな役割を果たしていること。それが私の「核のあるメッセージ」として一番に伝えたいことであり、それができるのは制服向上委員会だけであると感じた。

強い意志を持って入ったグループであった

が、活動を継続していくのは、決してたやすくはなかった。その理由としては、「誹謗中傷の言葉を受けたこと」が一番にあがる。人前で自分を表現する道を選んだ以上、それは覚悟できていたつもりだったが、「100%傷つかなかった」というのは、嘘になってしまうだろう。「生意気だ」「操られている」等、発信しているメッセージの内容ではなく、見た目や年齢からの、差別的判断故の批判の言葉が多かったことに、無力感が止まらず、悔しく、深く傷ついた。

でも、再び立ち上がらせてくれたのは、やはり制服向上委員会の活動を通し、出逢った方々の存在だった。私は「自分のために」悩み、闘っていたけれど、基地建設を止めるために、自分の生活をなげうち訴えている方がいた。そして、お腹を痛め産んだ大切な子どもを、「放射線量の高い場所で育てたくない」と政府との直談判に行かれる方をこの目で見、その方々のお話を聞いた。そう、「日本のために」闘っている方が多くいることを知ったのだ。

私はこんなにも視野が狭い中で生きていたことを痛感した。一つひとつの言葉に傷ついていたら、戦争に関われる国づくりを進める安倍政権の暴走を止めることができない。国民の声を無視し、日本の最高法規を、無理やり捻じ曲げた政権なら、憲法では可能とも不可能ともいえない「徴兵制」をやりかねず、そうなれば一番に戦地に送り出されるのは、若い世代の10代、20代だろう。戦争は遠いどこかの国の話ではない。私たちの目前にまで迫っている。

そんな危機的状況と形容できるようになってしまった日本を、立て直すチャンスとして確実な、「選挙」を有効に使いたい。「18歳選挙権」の当事者である私も、これからの未来を担う世代の政治意識向上に、少しでも貢献できるよう、絶えず訴え続けたい。（さいとうゆりあ）



## 「雲ヲ掴ム」と武器輸出反対ネットワーク

戸山 灰（武器輸出反対ネットワーク、画家）

### 武器が作られているところ

舞台は家族経営の小さな町工場。代々、自衛隊戦車のエンジン部品を「三菱重工」に納入してきたが、この不景気で民間の仕事が来ないため、金曜日は機械を止め、週休 3 日である。重工からの発注は、数量は少ないうえに不安定だ。削り出しで部品を作っているようだが、その材料の金属の組成にも機密があるため、材料はギリギリの量しか支給されない。その結果、熟練の老いた工員一人しか製作にあたれず、後継者も育てられない。まるで「百姓は生かさず殺さず」という言葉のとおりだ。そんなときに、降って湧いたように武器輸出の話が持ち込まれ……。青年劇場が今年 4 月に上演した「雲ヲ掴ム」（作・演出＝中津留章仁）の出だした。

### 企業や工場にはどんな人々がいるのか？

昨年 12 月に、市民と NGO がゆるやかに連携する「武器輸出反対ネットワーク」という団体が立ち上がった。私もその一人として、街でチラシまきをしたり、企業や政府への抗議行動に参加するようになった。最初のうちは政府への申し入れが中心だったが、最近は「雲ヲ掴ム」にあるような小さな工場を訪ねることもある。そういうときに、この芝居のことを思い出している。

「雲ヲ掴ム」に登場する、工場の社長、専務、経理を務める社長の妻、息子たち——進んで武器を作りたい人など、誰もいない。生活のために、「国を守るためだ」とつぶやいて自分を納得させ、自衛隊戦車の部品を作ってきた。しかし武器輸出となると話は違ってくる。大学生の次男は「外国の人たちを殺すための武器を作る？ そんなことしていいのかよ！」と声を上げて人々に波紋を投げかける。彼と恋人は最近、安保法制反対のデモに通うようになっていた。

### 「武器輸出できる国」へ

2014 年 4 月に、安倍政権は「武器輸出三原則」を閣議決定だけで撤廃し、日本は「武

器輸出のできる国」へと変貌した。武器輸出には、私たちがいつも使っている家電やスマートフォンのメーカーも関わっている。

私たちはそういった企業を直接訪れ、要望書を手渡す活動を始めている。6 月はじめ、三菱電機鎌倉工場を手始めに、7 か所の会社や工場を 2 日に分けて回った。のべ 50 人近い参加者とともに。

これに対する企業側の態度はまちまちだ。三菱重工は真っ黒なスーツを着た、がっちりとした社員が何人も出てきて、慇懃な態度で受け取った。富士通やパラシュートを製造する藤倉航装では、担当者が私たちの目の前に出て来いながら、なぜか要望書を受け取らなかった。東芝や NEC は警備員がずらりと並んで私たちの前にたちはだかり、言葉もかわそうとしない。一方、光学部品を作るジャパンセルでは、会議室に通されて、営業部長とかなり腹を割った対話ができただ。実に多様だと思う。

### 軍需企業が恐れていること

武器輸出推進派の、たとえば元防衛大臣の森本敏発言などでも明らかになっていることだが、企業側は人々に「武器商人・死の商人」と思われることを恐れていて、武器輸出に積極的になれずにいる。また、大企業にとっては武器製造自体、売上の 1 割を超えないごく一部の事業でしかない。不必要に叩かれるより、民需に集中した方がよいのではという思いは、彼らにもある。

「雲ヲ掴ム」では、若者たちの純粋な怒りに、大人たちの良心が揺さぶられる形で物語が進む。劇中人物の一人は、立場は違っても、同じように良心を持つ人々が、心を通い合わせることができるかどうか、未来はかかっているはずだと、やんわり指摘する。

武器輸出をめぐるぎりぎりのせめぎあいが続いている。そういう時代だからこそ、「雲ヲ掴ム」をぜひパワーアップして再演してほしいと思う。



## 戦前日本の出版と検閲

木村 広（日本出版労働組合連合会書記長）

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、千代田区の千代田図書館には、「内務省委託本」が所蔵されています。大日本帝国憲法下では、内務省が出版物を検閲し、そのために納本された原本の一部が東京市の図書館に委託され、これが引き継がれたものです。検索すると、1919年7月から1942年9月までに発行された2363冊が確認できます。

この「内務省委託本」は、実際の検閲の際に使用されたもので、担当官の書き込みなどが残されていて、たいへん興味深いものです。発禁本は含まれていません。当時の検閲の状況や出版社の苦心など、詳しいことは千代田区立図書館のHPで『千代田図書館所蔵 内務省委託本&出版検閲コレクション』（2011年2月）をご覧ください。

帝国憲法は、第29条で「日本臣民ハ法律ノ範囲内ニ於テ言論著作印行集会及結社ノ自由ヲ有ス」としていました。この「法律ノ範囲内」にあたるものの一つに1893年の出版法があります。出版法では、「外交軍事其ノ他官庁ノ機密」とされたことは、許可がなければ出版することはできません（18条）。また、発行3日前には製本したものを2部内務省に届け、検閲を受けなければなりません（3条）。さらに、検閲の結果、「安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壊乱スルモノト認ムル」出版物は、発禁や差し押さえになります（19条）。そうでなくとも、検閲の際に役人からいろいろ言われることもあります。こんな状況で、出版を仕事としていくことには、それなりの覚悟が必要だったことでしょう。

実際、1924年に医師の安田徳太郎が『女性美の研究』を翻訳した際には、検閲で大幅に図版が削られます。さらに安田が1936年に『社会診察録』を出版した際には、彼が暗殺された山本宣治と関係が深かったことから検

閲でにらまれ、ギリギリのところまで発禁を免れました。また、1935年には天皇機関説事件で、出版法違反により美濃部達吉の著書が発禁となりました。こんなに面倒であれば、そう簡単に本を出そうとは思いませんよね。

もう一つ「法律ノ範囲内」の法律にあたるのが治安維持法です。この法律は、1925年に制定され、1928年に最高刑が死刑に厳罰化されましたが、この改定は帝国憲法第8条にある緊急勅令によるものです。名目上、勅令は天皇が出すものですが、実際は政府による「緊急事態条項」です。この治安維持法は、当初は共産主義者や社会主義者を対象としていましたが、エスカレートしていき、1940年に新興俳句事件、1942年には横浜事件がでっち上げられたことは、よく知られています。「緊急事態条項」によるものでも、曲がりなりにも法律がいったん定まれば、これに基づいて官僚は動きます。官僚は、仕事がなくなれば、法律に基づいて仕事をつくります。

敗戦後も政府は、治安維持法を維持し続けます。1945年10月4日にGHQは人権指令を出し治安維持法の廃止を命じますが、東久邇内閣は、これを拒否して総辞職します。15日、後継の幣原内閣によって治安維持法はようやく廃止されました。

日本国憲法によって、第21条で言論・出版・表現の自由が保障され、検閲が廃止となったとき、初めて出版に産業として大きく発展する可能性が広がりました。誰でも考えたことや思ったこと、創造したことを、何の気兼ねも、面倒な手続きや行政の干渉もなく表現し、出版することができる。そして、これを仕事として働き続けることができる。そのことが戦後、出版を産業として成り立たせ、日本の知的発展を支え、さらには経済的な成長の基盤ともなったのです。



## 上を向く映画

### 我妻 孝泰 (C&S労働組合)

『愛の勝利を ムッソリーニを愛した女』(マルコ・ベロッキオ監督、2009)は、ベニート・ムッソリーニの若き日に寄り添いながら、彼が権力を握るにつれてその存在が隠蔽されるようになった実在の女性イーダ・ダルセルの悲劇を描いた伝記映画。自分がムッソリーニの妻であり、息子が彼の子であると認知させようとするが、ムッソリーニにはすでに妻子がおり、彼女は危険人物と見なされてしまう。病院に入れられた主人公が、チャップリンの『キッド』(1921)を見るシーンがある。子どもと引き離されているという前提で『キッド』を見るというのは、ありがちな設定に思えるが、引用されたチャップリンの画面が、ベロッキオ以上に力強いのに驚かされた。わざとらしい感じを超えて、独裁者の熱量に対抗しうる画面になっている。

強力なチャップリンを見たくて何本か見直した中に、もう一人の独裁者をネタにした『独裁者』(1940)がある。冒頭の字幕「独裁者ヒンケルとユダヤ人床屋が似ているのは単なる偶然である。二つの世界大戦の間の時代。世界は狂気で覆われ自由など存在しなかった頃の物語である。」独裁者に間違われた床屋がラストで行う有名な演説で「上を向け」と言っているのに初めて気がついた。6分に及ぶ演説の縮めの部分。声は演説するチャップリンだが、画面は迫害から逃れたハンナが中心。

「ハンナ、ぼくの声がきこえるかい？ いまどこにしようと、さあ、上を向くのだ。空を見るのだ、ハンナ！ 雲が切れる！ 太陽があらわれる！ 闇が去って、ぼくたちは光の中に出るのだ！ 新しい世界——食欲と憎悪と残忍を忘れたよりよい世界が、いまや来かかっているのだ。空をごらん、ハンナ！ もともと人間の魂は翼をあたえられていたのだ。だが、ついにいまはじめて空を飛びはじめた

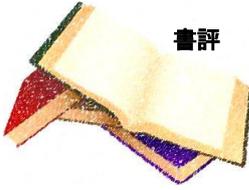
のだ。虹の中へ——希望の光の中へと、いま飛んでいるのだ。空をごらん、ハンナ！ 上を向いて！ (Look up Hannah)」

「上を見ろ」と言っている映画は『第七天国』だけではなかった。

フランク・ボーゼイギ監督の『第七天国』(1927)は、淀川長治さんの話を永六輔さんが聞いて「上を向いて歩こう」のもとになったそうだ。主人公シーコウはパリの下水道掃除人で家は7階の屋根裏部屋。ようやく手に入れた道路清掃の仕事を守るため、虐げられていた娘・ディアンを妻と偽って住まわせていた。となりの家に行くには板を渡っていくが、ディアンはこわがって渡れない。シーコウに「下なんか見るな。いつも上を見ろ (Always look up)」と諭され、あることをきっかけに渡れるようになる。戦争が勃発して、シーコウは出征していく。「戦争がこわい」と言うシーコウに、今度はディアンが「上を見ろ」と励ます。第一次大戦だから塹壕です。重傷を負ったシーコウは、「上を向いて死んだと伝えてください」と言い残すが…。

ここまで書いた後で、今まで見逃していた中川信夫監督の『「粘土のお面」より かあちゃん』(1961)をようやく見る事ができた。英語字幕付。仕事がなく落ち込んでいる貧しいトタン職人(伊藤雄之助)に妻(望月優子)が「しっかりしろ」という字幕が、keep your chin up になっていた。夜逃げで終わるが悲愴感よりも希望を感じさせるこの映画にふさわしい字幕だと思う。何しろ子ども(二木てるみ)が『ラ・マルセイユーズ』を歌うんですよ。weblio 辞書では keep your chin up の訳語はなんと「上を向いて歩く」になっている。

ボーゼイギ、チャップリン、中川に上を向けと言われたら、向かざるをえないではないか。



書評

## 『国家戦略特区の正体 外資に売られる日本』

郭 洋春 著 2016年2月 720円+税 集英社新書

甘利経済再生担当相の斡旋利得・収賄疑惑で TPP 論議は吹き飛んだまま国会は閉会した。しかし臨時国会へ継続審議になっただけで、油断してはならない。

幕末、アメリカの軍艦を嚆矢として諸列強は開国を求め来航、日本は不平等条約を迫られ、植民地化の危機に直面した。関税自主権回復や領事裁判権の撤廃には実に 50 年以上を掛けて取り組まねばならなかったのだ。国民的議論も沸騰、大隈外相がテロに遭い右脚を喪っている。

その先人たちの苦労も全部水の泡となるのが、グローバル資本主義が求める多国間関税撤廃・貿易協定だ。本書はそのさまざまな面にわたる福祉や人権への破壊的効果を指摘する。

国内農業の圧迫、過剰なパテント保護要求

による訴訟、規制緩和による有毒な農薬の自由化がもっぱら語られるが、問題はそれだけに留まらない。現政権下では「岩盤規制（既得権益）」と決めつけられた労働法制も「戦後レジーム」同様に敵視されており、TPP が求める企業活動の自由を保障しようと、「ここは規制を緩和・撤廃しますよ」と特別区域指定をする。これこそが「国家戦略特区」だ。そしてここでは労働者の権利は規制され、あるいは国内法よりも企業の論理が上位に据えられる。トリクルダウンどころではない。

「成長」や「地方の活力」が喧伝されるが、実態は逆である。それはこの「特区」が外資のための植民地的性質を持っていることに由来する。著者は開発経済の研究者として、この本質に警鐘を鳴らしている。（北林岳彦）



## あの時

吉田 真姫（福島県須賀川市在住）

熊本でも、地震が起こった。相次ぐ地震……テレビで見るたびに、「あの時」のことを思い出す。

私の住んでいる地域は、震度6強と、内陸では、大きな地震だった。被災したのは、車の中で、目の前の道路は波のようにうねり、ラジオからは、逃げろ逃げろと叫び声……。車を置いて、放心状態のまま、瓦礫を乗り越え、自宅をめざす。途中、瓦がほとんど吹き飛んだ家を見たが、この家の中の人は、生きてるとは思えない。この家の隣は、二階建てだったはず……一階建てに変わっていた。やっと、現実を受け止め、自宅にたどりつくと、さっきまで人がいた気配……生暖かい家の中、瓦礫と化した家の中をさがす……外から、小学生の娘の「お母さん」と、泣き叫ぶ声がし、「生きていた……」。今でも、昨日のここのように思い出す。

そして、「原発」「どこへ行こうか」荷物をまとめ車に詰め込む。「早く逃げなよ」と、携帯がなる。周りの個人病院の先生は、すでに逃げている。見離された……

娘に逃げることを告げた方がいいが、あてもなく逃げる不安と、家族と離れて暮らす自信のなさに……動けなかった。結局、逃げた人々は、何事もなかったかのように家に戻っている。

あの時、逃げた方が良いのは、わかっているが……。今は、通学路の放射線量を測り高いところは通らない、放射線量を測った野菜を買うなど、自分にできるといいと言われる方法で暮らしている。

何年か、何十年か先に、あの時、どうすればよかったか分かるかもしれない。私は、それが分かったとしても、それを受け入れ、生きていくことを決めている。混沌の中を生きていこうと思っている。

### ✿ 編集後記 ✿

「戦争法反対」の声が世代を超えて広がっています。国会前での反対集会や新宿・渋谷での反対パレードに参加する、「アベ政治を許さない」のカードを携行するなど、さまざまな形で戦争反対の意思が表明されています。今号は「多様に反戦する」と題して、さまざまな「反戦」を紹介します。劇作家の立場から反戦を訴える「弱さとともに」では戦争に加担しない決意が語られ、「核のあるメッセージ」では音楽を通して日本国憲法の意義と価値を広める若い決意が示されています。武器輸出三原則が撤廃されたいま、武器製造にかかわる家電メーカーなどに抗議・申し入れの行動がおこなわれています。演劇「雲ヲ掴ム」では生活のために武器生産を余儀なくされる大人と若者のぶつかり合いから「武器輸出」を考えさせられます。かつての検閲や「緊急事態条項」の問題点の指摘から、現在の日本社会への警告がよみとれます。映像が闘う決意を呼びおこしてくれることもあります。今号が出る頃には参議院選挙の結果が判明していることでしょう。どうなったとしても私たちはやるべきことをやるだけです。(T)